

17. 消化管出血のシンチグラフィ ——当院における検査成績——

壺井 匡浩 丸岡 伸 山崎 哲郎
(東北大・放)

1985年7月より1996年6月までに当院にて施行された消化管出血41症例の scintigraphy 58件 (^{99m}Tc -RBC 36件, ^{99m}Tc -Sn-colloid 22件) について解析, 検討した。

58件中所見の得られたものは18件で, 陽性率は31.0%であった。 ^{99m}Tc -RBCでの陽性率は41.7%, ^{99m}Tc -Sn-colloidでの陽性率は13.6%であった。

手術が施行された6例において, 検査開始後短時間で陽性になったものでは, シンチグラムの出血点と手術所見が一致したが, 時間を経てから陽性になるほど出血点の特定は困難であった。

^{99m}Tc -Sn-colloid と ^{99m}Tc -RBC はそれぞれ利点があり, 症例に応じて使い分けが必要と考えられた。

18. Crohn 病の ^{111}In -DTPA-IgG 炎症シンチグラフィ

丸岡 伸 壺井 匡浩 山崎 哲郎
(東北大・放)

治験第3相として ^{111}In -DTPA-IgG を使用する機会を得たので, クロウン病に対して ^{111}In -DTPA-IgG シンチグラフィを行い, 活動性の炎症巣の評価を試みた。対象はクロウン病5例で男性4例, 女性1例, 年齢は20-36歳, 平均27.8歳であった。同一症例で2回の検査を行った症例が1例あり検査件数としては6件である。方法は ^{111}In -DTPA-IgG を80 MBq 静注後, 1日後2日後3日後に Siemens 社製 MULTISPECT を用い, 前後面の全身像および腹部の planar 像と SPECT 像を撮像し, 注腸透視所見と比較した。陽性画像の得られたのは6件中4件であった。1日後2日後3日後のシンチグラムで集積像に動きが認められる症例があった。また ^{111}In -DTPA-IgG 集積像の部位と注腸透視の異常所見の部位は必ずしも一致しなかったが, 腹部の background が低く腹部の活動性炎症巣の評価には有用であると思われた。

19. 悪性腫瘍による高カルシウム血症と骨シンチグラム

吉岡 清郎 佐藤多智雄 福田 寛
(東北大・加齢研・機能画像)

悪性腫瘍に認められる高Ca血症はまれなものではなく, 末期癌患者のQOLを左右する因子として問題視されている。この高Ca血症には腫瘍から分泌される液性因子によるものと, 転移性骨病変によるものとがあり, 腫瘍組織では扁平上皮癌に多いといわれる。一方これまでのわれわれの肺癌患者の骨シンチグラムの検討で, 肺扁平上皮癌では他組織型に比し, 転移性骨病変が集積欠損として出現することが多いことが確認されている。これらのことから, 悪性腫瘍による高Ca血症と集積欠損性の骨病変との関連の有無を検索した。

その結果, 悪性腫瘍による骨病変を認めた108症例のうち14例に12 mg/dl をこえる血清Ca値を認め, その14例中8例に集積欠損性の異常所見が確認された。高Ca血症と集積欠損所見との強い関係が示唆された。

20. 頭頸部腫瘍における ^{99m}Tc -MIBI SPECT の使用経験

平野 弘子 戸村 則昭 渡辺 磨
遠藤久美子 泉 純一 加藤 弘毅
渡会 二郎 (秋田大・放)

頭頸部腫瘍の12例(扁平上皮癌8例, 基底細胞癌1例, 悪性リンパ腫1例, 悪性黒色腫1例, 腺様嚢胞癌1例)に対し, MIBI SPECT を施行した。5例は early image のみ, 7例は early image と delayed image を得た。

12例中10例に腫瘍へのMIBIの集積が認められ, 悪性リンパ腫, 悪性黒色腫, 腺様嚢胞癌に高い集積がみられた。また, 腫瘍径が大きいほど, 高い集積を示す傾向がみられた。delayed image では, 腫瘍への集積は early image に比べ相対的に低下していた。2例では放射線治療前後にMIBI SPECT が施行され, 治療後に集積の低下が認められた。